地質ニュース総目次

(No. 317～340) 1981・1981

＜地　質＞

楽園と謎の島セイシェルズ 330
タービダイトの話(1)
　フリッシュ型砂泥互層のタイプと堆積環境 334
　〃　(2)
　〃　〃 336
深部地質構造のもつ意味(1) 338
　〃　(2) 339

＜応用地質＞

D. J. VARNES (1974) による地質図の論理
　—土木地質のための解釈と利用 317·318
森地熱発電所と濁川地熱地域の概観 321
樽前火山—噴火活動と災害 323
筑波の水文環環（その１）
　—台地小流域河川の流出特性にみられる都市化の影響 324
タイ国の地熱エネルギー資源 325
αトラック法による活断層探査と
　その連続観測による地震予知 325
1981年８月小具川堤防決壊による洪水流について 330
筑波研究学園都市のオールコアボーリング 330
UNESCO (1976) による
　土木地質図—その体系と作成の手引き 332
昭和57年 (1982) 浦河沖地震 334
地質調査井
　豊井１号井および岳の湯K—７号　の成功 336
地質調査所における
　地震災害調査及び火山噴火調査の変遷 339
地質調査所における温泉調査の歴史 339
地質調査所における土木地質調査事業の変遷 339
地質調査所における応用地質調査業務の歴史
　—地下水・表流水の調査研究— 339
地質調査所における応用地質事業の沿革
　応用地質課の設置から現在と将来の展望 340
地質調査所における
　傾斜地災害の調査・研究の変遷 340
地下水位の観測記録に現れる
　地下水障害の動向 340

＜海　洋＞

海洋地質部の研究の概要 319·331
深海底鉱物資源に関する地質学的研究
　—昭和55年度の白嶺丸による調査航海— 319
日本周辺海域の海洋地質調査活動
　—昭和55年度の白嶺丸による調査航海 319
沿岸海域汚染に関する調査研究活動 319
霞ケ浦の歴史 319
日本列島と海の底—海溝とその周辺— 320
海底細骨材資源の話 320
堆積物の軟X線撮影法—その１— 320
イクチオリス 320
霞ケ浦の湖底をさぐる 320
堆積年代測定法(1)：鉛—210法 320
マイコンによるエアガン・モニタの開発 320
南西アフリカ西岸に古 CRETACEOUS SEA を探る
　—DSDP/IPOD LEG 75— 326
対馬海峡をめぐる白亜系・第三系の地質学的問題
　—その１—陸域部の地質比較 328
　—その２—海域の地質と総括 340
日本周辺の海洋地質調査活動
　—昭和56年度の白嶺丸による調査航海— 331
深海底鉱物資源に関する地質学的研究
　—昭和56年度研究航海 (GH81-4) 報告— 331
沿岸海域汚染に関する研究 331
霞ヶ浦の湖底をさぐる
　—火山灰層を使って堆積物に年代の目盛りをうつ— 331
マンガン団塊の岩石学 332

＜鉱　床＞

日本の陶土を訪ねて　—その３—　益子焼 317
メキシコの石油資源(5) 321
ハンガリーの斑岩銅鉱床 322
千島列島の金属鉱物資源 322
ケイソウ質・パーライト質などの
　鉱物質濾過助剤とその諸問題 324
チリー火成活動の国 326
銅の国　チリ 328
共水性ガスとその鉱床（その８） 329
モンゴルとその螢石鉱床① 329
モロジョージュヌイ石綿鉱床 332
岩手県門神岩の角礫岩 333
浦島子伝説と二酸化炭素
　—領家帯の花崗岩類から産する炭酸ガス— 335
トルコ共和国の窯業源料資源 336
関東地方の砕石 338
クリル諸島の燃料鉱物資源 340
中国における２・３の非金属資源 321
中国の燐鉱資源 321
中国のキンバーライトとダイヤモンド 327
中国のタングステン鉱床その１・その２ 332·333
中国の鉱物資源
　①砂岩鉄鉱鉱床 334
　②ポーフィリー型 Cu，Mo 鉱床 335
　③華南の花崗岩類 340
その後の西シベリア油田・ガス田群(3) 318
　〃　〃　(4) 339

＜物理探査その他調査法＞

断層とマイグレーション 318
RBV カメラによる全世界陸域撮像計画 325

昭和54年における日本の物理探査活動 327
地下探査のための
ガンマスペクトルとパルス中性子の検層技術 334
地熱情報データベース・システムについて 335

＜地質標本館だより＞

このシリーズをはじめるにあたり
地質標本館の建築石材について 324
地質調査所の創設と変遷
人間は地球の姿をどのようにとらえてきたか 325
日本列島大型地質模型 325
富士・箱根火山（立体模型とオート・スライド） 326
オート・スライド「日本列島の生いたち」 326
新たに復元されたデスモスチルス 327
地質年代をはかる 328
開館１年をふり返って 329
最古の岩石 330
火山と温泉 332
地熱地帯に見られる鉱物 333
地球の内部構造—展示ホール— 335

＜ロ　絵＞

益子焼 317
断層を検出する—阿武隅沖の反射記録によって— 318
深海底の堆積物コアに見られる生痕化石 319
海底写真 320
建設が始まった森地熱発電所 321
地震予知のための地下水監視システム 322
研究学園都市周辺地質の見どころ（その１） 323
〃　〃　（その２） 324
ヨーロッパの石油備蓄岩盤 325
チリーの球状花崗岩 326
LANDSAT 映像の方向差分（微分）写真 327
チュキカマタ鉱山 328
阿寺断層の発掘調査 329
チリ硝石 330
ソノグラフによる海底面のモザイク図 331
韓国東南部梁山（Yangsan）断層 332
地熱開発調査の進む栗駒北部地域 333
六甲山地の断層 334
地熱探査が進む北部タイのサンカンペン地熱地帯 335
研究学園都市周辺　地質の見どころ(3)・(4) 336・338
黒鉱鉱床の採掘から精錬まで 339
シェラ・ネバダ・バソリス 340

＜国際会議・外国のようす＞

第26回万国地質学会議と世界地質図委員会総会 317
中華人民共和国の鉱山を訪ねて(1)・(2)・(3)・(4)
318・323・324・329
経済地理メモ社会主義国編
東ドイツ(318)・ハンガリー(322)・チェコスロバキア(323)・ルーマニア(324)・ユーゴスラビア(327)・モンゴル(329)・ブルガリア(334)
フィッショントラック年代測定研究会に出席して 322
南太平洋沿海鉱物資源共同探査調整委員会
第９回会議に出席して 323
アメリカ展望～とびあるき～①・②
USGS・NASA・JSC 324・326
石油地下貯蔵技術（その２）
ヨーロッパにおける廃坑備蓄の現況 325
日米地熱資源評価に関する会議に出席して 327
アンデスを訪ねて 330
米国地質調査所のデータベース 330
“春秋”以前の中国の金属鉱業 333
チリ南部の氷河湖を訪ねて 333
中国訪問10日間（地質科学院と２，３の鉱山について） 334
第５回地熱資源会議に参加して
（1981年10月25日—29日・ヒューストン） 338
ブラジルの錫地帯の点描 338

＜そ の 他＞

年頭所感 317・329
—大山　桂氏を囲んで—
貝の研究50年をふり返る 317
日本石油ことはじめ　その１・その２ 317・327
対話型データ処理
その２・岩石用化学分析データ入力のプログラム 317
その３・REDIM 文を使った配列操作 318
その４・岩石化学データ処理システムのあらまし 321
その５・自動連続処理でプロットに番号をつけるプログラム 322
その６・印刷用原図の作成とマーク 334
その７・簡単な検索用プログラムの話
—備品管理の例— 338
斉藤正次元所長の勲三等叙勲を祝う 318
地学と切手 320・322・326・327・333・334・336・338・340
地下水を通じて
—開発途上国研修員との13年— 321
昭和56年度の地質調査所の研究—特別研究— 322
〃　—経常研究— 323
昭和57年度の地質調査所の研究—特別研究— 335
〃　—経常研究— 336
花粉学の現状とその問題点
その１・花粉学の現状 332
その２・花粉学の応用 333
その３・花粉学の研究手法の発展 335
地質調査所の国際的活動の概要（昭和55年度） 323
昭和55年度地質調査所の出版物 323
昭和56年度地質調査所研究発表会について 323
鶴田均二氏勲四等に叙せられる 324
人形峠ウラン鉱床露頭発見の地
記念碑建立にちなんで 325
地名の標準化について 325
昭和56年度から始まる所内特別研究 325
地質ニュースとともに30年　高橋　博氏退官される 325
学会案内　日本地下水学会 325
ISSC ニュース
不整合で境された単元（Unconformity-bounded Units）
—ISSC の Circular No. 61から 326
マイコンによるＸ線粉末回折線鉱物検索システム
—HP-85を用いた BASIC プログラム— 326
LANDSAT 映像のエッジ強調処理
方向差分によるカラー合成 327

地質調査所の海外協力の発展への道をさぐる
—国際研究協力課への併任を終えて 327
日本地質アトラス 328
地質・資源情報の分散型データベース・システム 328
100万分の1日本地質図の地質別面積測定を終えて 328
地質調査所創立100周年にあたって 329
温度変化法による鉱物・ガラスの屈折率測定方法 329
貝類分布から海流や海況を推理する 329
創立期の地質調査所 330
全国地熱資源総合調査 330
地質図—製図印刷から発行まで 332
明日の資源と新材料
—地質調査所における宇宙物質の研究— 333
昭和56年度地質調査所の出版物 333
地質調査所における石油・天然ガス調査事業の歩み 336
三土知芳・兼子　勝・石和田靖章
昭和の石油・天然ガス調査を語る 338
地質調査所創立100周年記念行事おこなわれる 339
地質調査所100年の回顧と展望
（地質調査所創立100周年記念講演要旨） 339
地震予知技術の展望
（地質調査所創立100周年記念講演要旨） 339
地熱エネルギーの将来
（地質調査所創立100周年記念講演要旨） 339
創立100周年に使われたシンボルマーク 340
日本水理地質図30　山梨県甲府盆地 317
日本地熱資源賦存地域分布図 318
20万分の1地質図幅　大多喜(319)・横須賀(320)・秋田及び男鹿(321)
5万分の1地質図幅　宮古島(322)・大平山(323)・帯広(324)・相沼(325)・鴨川(326)・白木峰(327)・龍神(328)・亀山(329)・遊楽部岳(330)・越後湯沢(331)・石岡(332)・古川(333)・松島(334)・三日町(335)・静岡(336)・大阪西北部(338)・象潟(339)・中甑(340)
日本海中部海域広域海底地質図 331
海洋地質図16　紋別沖表層堆積図 333

＜100周年記念号　No. 337.＞

地質調査所創立100周年を迎えて
「知恵の文化」の時代に向って　技術こそ地球を救う
鉱物資源小論
最近の自然災害が教えるもの
国土基本地質図のこれから—5万分の1地質図幅—
戦後地質編さん事業の歩み
地質調査所における海洋地質研究の歴史と現況
地質調査所における応用地質調査の沿革
—ナウマンから応用地質課の設置まで—
地熱地質研究28年の想い出
地質調査所における鉱床の調査研究（戦後の活動）
石炭の量的調査から質的調査へ
水溶性ガスから共水性ガスへ
物理探査技術の発展と将来への展望
地質調査所における化学分析の歩み100年
地質調査所における地球化学研究の歴史と展望
地質調査所の国際活動

研究室の話題から（1テーマ2ページ）

大規模火砕流マグマの発生と定置
—農飛流紋岩を例として—
コノドント・放散虫の微古生物学的研究
東海層群研究の現状
オパール CT の秩序化と堆積物の熱史
標本からみた地質データの構造と特徴
大陸棚・大陸斜面の海底地質調査と日本周辺海底地質図
日本周辺海域の表層堆積図の意義
深海底マンガン団塊の研究における課題
湖沼堆積物の調査技術に関する研究
堆積物から見た環境変動史
マイコン時代の海洋地質
海の“やまびこ”で海底を探る
エネルギーを地中に貯蔵する
大地に加わる力を測る
実験室で地震をつくる
地下ガスによる地震予知
高温地層のボーリング
サーモルミネッセンス年代測定法とその応用
化学的に見た地熱と温泉のかかわり
非火山性地域の地熱資源—深層熱水—
水圧破壊
海底下の地熱資源
豊かな，母なる花崗岩
—新しい花崗岩系列と鉱床—
黒鉱探査史における鉱床成因論の役割
同位体地質学の鉱床探査への応用
地下地質学への招待
鉱床をとりまく水
—探査・開発から抗水処理まで—
地質調査所員が発見にたずさわった新鉱物
石炭と石油の阿吽の呼吸
夢は地下深所へ　宇宙へ
そしてソフト・エネルギーへ
地質構造のモデル実験
—深部地下資源探鉱への応用—
資源探査から資源貯蔵の時代にそなえて
石油地下貯蔵技術の開発へ
活断層探査に活躍する VLF 法
ここまで来た浅層反射法
相模・駿河湾沿岸地域の重力異常
プレートの沈み込み—空中磁気図からの推定—
衛星リモートセンシングと資源探査
コンピュータ時代の資源情報
年代測定法の新分野と将来
日本列島の地球化学
最近の機器分析の動向と未来
46億年のかなたに新材料を探る—スターライト計画—
ヒマラヤの国ネパール
札幌近郊野幌丘陵地区のせっ器粘土
稀少金属に関する最近の話題
有珠山噴火後の災害防止
京都府奥丹後半島の沸石岩
海底扇状地形成過程における2つの段階